

第2学年2組 生活科学習指導案

平成19年2月7日（水）第5校時

1 単元名 あしたへジャンプ

2 単元の目標

- 自分の成長に関心を持ち、振り返ることを通して、自分が成長してきたことや、成長の背景には多くの人の支えがあったことに気付くとともに、成長を支えてくれた人に感謝し、意欲的に未来に向かって生活しようとするすることができる。
- ・自分の生まれた時や幼い頃の様子に興味を持ち、進んで周りの人から話を聞いたり、思い出の品物を用意したりして自分の成長を振り返り、さらに自分の生活を高めていこうとすることができる。 (関心・意欲・態度)
- ・自分の成長の記録を工夫して作ったり、自分の成長を支えてくれた人に感謝の気持ちを表したりすることができる。 (思考・表現)
- ・自分の成長を支えてくれた周りの人々と自分との関わりに気付くことができる。 (気付き)

3 単元について

児童は、自分自身を振り返る中で「できるようになったこと・がんばって上手になったこと」などの成長を自覚することで、自分に自信を持つ。それをもとに、より具体的に「今度はこんなことがしたい。」「今度はこの方法でやってみよう。」などの主体的な意欲を持つようになる。本単元では、児童に自らの生活を振り返らせ、積極的にプラスの自己像を描かせて自信を持たせるとともに、その背景にある、自分を支えてくれた人たちの存在にも気付かせ、感謝の気持ちを持てるようにしたい。

児童は、自分の記憶にない生まれた時や幼い時の様子を知ることに関心を持ち、これまで世話をしてくれた人を中心に、自分の成長に関わりのある物や情報を積極的に集める。このような活動の中で、自分自身の成長への関心・意欲が高まり、未来に向かって自分の生活を高めていこうとする態度がいつそう育つと考えられる。

自分の成長を調べていく中で、周りの人がどんなに自分を心配したり期待したりしてくれたのか、どのように大切にしてくれたのかに気付くことができる。このような気付きを自分の成長の過程に位置付けて考えられるようにすることが、思考力・判断力を育てることになると考えられる。また、ここでの自分の成長の喜びから、「自分の成長記録を残したい。」「これまで自分を支えてくれた人に自分の成長を知らせ、感謝の気持ちを表したい。」などの意欲を高め、児童の主体的な活動を展開し、一人一人の表現力を育てることができると考えられる。

本単元の導入としては、学校生活のいろいろな場面で、児童が自分の成長に気付いたつぶやきや作文などを話題に取り上げてクラス全体に広めたり、教室に作品を掲示したりして、「自分の成長」への関心を高めておく。

最初の「できるようになったことを見つけよう」と「できるようになったことをおしえあおう」の活動では、2年生になってできるようになったことを見つけさせて、「こんなことができるようになっていたんだ。」と現在の自分に対する有能感を持たせる。

次の「小さいころの自分をさがしてみよう」では、生まれた時にまでさかのぼり、幼かった頃の自分の様子取材させる。幼かった頃に使っていた物など、具体的な資料を収集したり、家族をはじめとする周囲の人にインタビューしたりして、具体的に自分の成長の足跡がつかめるよう工夫させる。その中で、自分の成長を支えてくれた人の存在に気付かせたい。

その次の「大きくなったじぶんをたしかめよう」の活動で、これまでに感じた「現在の自分についての達成感や自信」と、「過去の自分についての気付き」を、自分なりの工夫で作品に表現してまとめさせたい。

「ありがとうをとどけよう」の活動では、自分の成長を確かめていく中で気付いた、自分を支えてくれた人の、自分に対する愛情や期待に対して、感謝の気持ちを表現することへの意欲を高めさせていく。

その現在と過去の自分の姿をベースに、「あしたへはばたこう」の活動で、「未来の自分の生活への期待と意欲」を育てていく。そして、最後により具体的な未来への思いを持てるように単元を構成したい。

4 児童について

「生活科の学習が好きですか。」の問いに、36名が「好き」と答え、「ふつう」が1名、「嫌い」はいなかった。好きな理由として、「いろいろなことを調べるのが楽しい」「自然を観察したり野菜などを育てたりするのがおもしろい」「探検が楽しい」「見つけたよカードをかくのが好き」「みんなでフェスティバルをしてがんばれた」などの理由が多く見られた。「ふつう」と答えた児童は、「町探検はあまり好きじゃない」との回答であった。

児童は1年生の時に、「入学して以来の1年間の自分」を見つめる活動をしてきている。そして、新1年生を迎える会「わ田っ子わくわくランド」を計画し、できるようになったことや小学校の生活について、新1年生にいろいろ教えてあげる活動を行った。この活動を通して、児童は、自分ができるようになったことや日常生活の中での自分の役割が増えたことなどが分かり、大いに自信を持つとともに、意欲的に生活しようとする態度が高まった。

そこで、2年生の本単元では、自分が知らない生まれた時にまでさかのぼり、自分の成長を調べ、見つめ直す活動を行いたい。

クラスの児童は、様々な保育園・幼稚園から本校に入学している。和田校区にある和田保育園から12名、竹里保育園から6名、上北野保育園から3名の児童をはじめとして、計12の園から入学している。従って、保育園・幼稚園の頃の思い出は、児童たちにとって共通のものとは言えない。しかし、どの児童にとっても、多くの人と関わり、様々な人のお世話を受けながら、大切な体験を積んできた貴重な思い出である。自分が知らない頃のことを調べ、理解していく中で、自分の成長、そしてそれを支えてくれた人たちの存在に気付き、新たな意欲を持つことができるように願っている。

保育園・幼稚園と小学校との連携は、今日重要な課題であるが、本学年の児童は、これまでに、1年生の国語で保育園・幼稚園の先生に宛てて近況を知らせる手紙を書く活動、生活科で新1年生を迎える会をする活動、2年生の生活科において町探検で保育園を訪問する活動などを行って交流をしている。

5 指導について

児童の発達段階から考えると、これまで親の愛を一方的に受け、安心して暮らしてきたのが実情であると思われる。そんな児童に、押しつけでなく、自然に感謝の気持ちを持たせるために、写真を見たり、話を聞いたりするなどの具体的な活動を多く取り入れながら、学習を進めていきたい。

育ちや環境は異なっても、どの児童も自分を支えてくれている周りの人たちの温かさに気付き、安定した気持ちの中で、楽しい活動を通して自分を見つめることができるよう継続的に環境を整え、以下のことに気をつけて指導していきたい。

(1)家庭との連携を密にして、一人一人の環境の違いに配慮しながら、調べ学習をさせる。

一人一人が自分の思いを持ち、方法を考え、工夫して調べることは、主体的な学習態度を身に付けるための、また、生きていく上での大切な力である。自分の幼かった頃のことを調べることも、自分の課題として、意欲を持って十分に調べさせたいと考える。そのため、本単元では、12月に学習を開始し、「2年生になってできるようになったこと」の学習を進めておく。そして、家族や親戚の人と関わる機会が多く、自発的に調べる時間も保障される冬休みの期間を利用して、幼かった頃についての一人調べの学習を進めさせる。その際、児童によって家庭環境が異なることを配慮して、自分の調べられること、調べたいことを自由に調べさせたい。

(2)家庭からの協力を得て、学級活動「ぼく・わたしが生まれたよ」と関連させ、知らなかった自分への興味を持たせて一人一人の活動意欲を高める。

命が誕生したとき、家族の喜びはどれほどであったろう。これまでも、児童は、自分が生まれたときのことについて話を聞く機会があったであろうが、今一度振り返って学習することによって、知らなかった自分の様子や、家族の喜び・苦労について知ってもらいたい。その際、児童が生まれた時に感じたことを伝えてもらうことによって、家族に愛されて生まれてきたことを児童に味わい直してもらいたいと願う。この時間は参観授業とすることで、保護者の方の協力を得、児童に直接保護者としての喜びを伝えるとともに、親子で命の誕生の喜びを共有してもらいたい。

(3)保育園・幼稚園との連携を図る。

児童がここまで成長するまでには、多くの人のお世話になってきている。家族に愛され、

守られる環境から、大きく一步を踏み出した時期が、保育園・幼稚園の頃である。家族ではない人との関わり、初めての集団活動を通して、児童は様々な経験をつんだであろうと思われる。そして、その成長を支える上で、保育園・幼稚園の先生には、きめ細やかなお世話を受けたことが考えられる。

保育園の先生をゲストティーチャーに迎えて

本時では、保育園の先生に授業に参加していただき、お世話した当事者の声を直接児童に伝えたい。そして、今まで知らなかった自分に気付かせ、また、良かったことも大変だったことも含めて、いろいろお世話になったことを理解させたい。また、保育園の先生が、現在も児童を見守ってくれていることも感じ取ってもらいたい。クラスの児童は12の園から入学しているので、当日参加していただく園の先生と卒園児童との個人的な話し合いではなく、どの児童にとっても経験した大切な時期の出来事として共有させたい。

全ての児童に園からのメッセージを

しかし、低学年の児童にとって、やはり自分自身の経験を通してこそ、大切な学びの気付きを実感できると思われる。そこで、全ての児童の園から、児童に宛てたメッセージカードを書いていただき、一人一人の児童が保育園・幼稚園の先生からの思いを受け取れるようにしたい。

(4) 学び合いの場を設定する。

これまでの学習で、児童には「聞く・話す」ことの基本的な力を身に付けさせたいと願って指導を進めてきた。2年生として、「相手の目を見て話を聞く」「自分の考えを最後まで話す」「友達の思いを受け止める」ことができるよう、帰りの会のスピーチタイムや、授業での話し合い活動を行ってきた。本時でも、園からのメッセージカードを読む場面などにおいて、児童が互いに思いを交換できるようにしたい。また、分かったことや気付いたことをグループで話し合う場を設定することで、全員が発表できる機会を持たせるとともに、少人数という話しやすい場で、自分の考えを表すことができるようにしたい。

(5) 一人一人の思いや願いを大切にしたい表現活動を重視する。

幼かった頃のことについて調べたことを、自分なりの工夫でまとめさせていきたい。絵本、巻物、紙芝居、カルタ、宝箱など、児童一人一人が希望した形で作品にまとめさせていきたい。自分たちの成長を支えてくれた保護者に向けて、感謝の気持ちを込めて発表することをめあてに、分かったことや気付いたことなど、自分の思いを丁寧に表現させたい。

6 指導計画 (22時間配当 本時12/22 +道徳1時間、学級活動1時間)

時配	学習内容	ねらい	評価規準		
			関心意欲態度	思考・表現	気付き
1 2	できるようになったことを見つけよう	現在の自分が、学習面や生活面でできるようになったことに興味を持ち、それらを見つけることができる。	◎ がんばったことやできるようになったことを進んで見つけようとしている。 (行動観察)	○ 自分ができるようになったことをカードに表すことができる。 (カード)	自分ができるようになったことについて気付いている。
3	できるようになったことをおしえあおう	自分ができるようになったことを発表するとともに、友達の努力を認め合うことができる。	◎ 進んで発表したり友達の発表を聞こうとしたりしている。	◎ 自分ができるようになったことを発表することができる。 (発表)	○ 自分や友達ができるようになったことについて気付いている。 (発表)
4 5	たからものはっぴょう会をしよう	小さかった頃の物を紹介し合い、自分の成長の様子を調べることへの関心を高める。	◎ 小さかった頃のことについての意欲が高まっている。 (行動観察)	○ 小さかった頃に関する物を探し、友達に分かりやすく紹介すること	自分にも友達にも大切にしていた物があり、小さかった頃の思い出

			ができる。 (品物・発表)	があることに 気付いている。
学級活動		道徳		
目標 両親によって生まれたことを知り、自他の生命を大事にすることができる。		主題名 育ててくれた人に感謝の心で 2-(4) 尊敬・感謝		
ぼく・わたしがうまれたよ		ぼく・わたしはだあれ		

6	小さいころの自分をさがしてみよう ・生まれた時	自分が小さかった頃の様子について、いくつかの時期に区切って調べることができる。	小さかった頃のことについて 関心を持ち、進んで調べようとしている。 (取材カード・行動観察)	◎ 小さかった頃に関する資料を探したり家族や身近な人に取材したりできる。 (取材カード・発表)	○ 周囲の人のいろいろな支えがあったことに気付いている。 (発表・行動観察・振り返りカード)
7	----- ・1才までのころ				
8	----- ・3才までのころ				
9	----- ・保育園・幼稚園のころ				
10	----- (本時)				
11	----- ・入学したころ				
12				自分が小さかった頃の様子が分かる。 (取材カード・発表)	
13					
14					
15					
16	大きくなった自分をたしかめよう	自分が調べたことを、工夫してまとめることができる。	自分が小さかった頃の様子を進んで記録にまとめようとしている。	◎ 自分なりの方法で丁寧に作品を作っている。 (作品)	○ 自分の成長を支えてくれた人がいることに気付いている。 (作品)
17					
18					
19	ありがとうをとどけよう	自分が調べたことを、お世話になった人に分かりやすく発表することができる。	○ 進んで感謝の気持ちを表そうとしている。 (発表・行動観察)	◎ 自分がまとめたことを、お世話になった人や友達に分かるように発表することができる。 (発表)	◎ 自分の成長について、喜んだり励ましたりしてくれるたくさんの人がいることに気付き感謝の気持ちが持てる。 (発表・お礼の手紙)
20					
21	あしたへはばたこう	これからの自分の成長への願いをもって生活しようとする。	◎ これからやってみたいことやがんばりたいことを見つけ、楽しく生活しようとしている。 (行動観察)	○ これからの生活への夢や希望を考えることができる。 (めあてカード・発表)	○ これからの生活への夢や希望への願いを持つことができる。 (めあてカード・発表)
22					


7 本時の目標

自分や友達の保育園・幼稚園の頃の様子について，理解することができる。（思考・表現）
 自分が成長する中で，多くの人に支えられてきたことに気付くことができる。（気付き）

8 準備物

保育園・幼稚園の先生からのメッセージ メモカード（教師）
 保育園・幼稚園の頃に使っていた物（教師・児童）

9 本時の学習過程（本時小単元12・13・14時の2時間目）

時配	学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
11	<p>○保育園・幼稚園の頃について，調べたことを発表する。</p> <div data-bbox="268 654 906 757" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ほいく園・ようち園のころについてしらべて教え合おう。</p> </div> <p>○保育園・幼稚園の頃について分かったことをまとめる。</p>	<p>・自分が家族に聞いたり，園に出向いて取材したりしたことを発表する時間を十分にとる。</p> <p>・保育園・幼稚園の頃に使った物を用意させ，発表しやすくする。</p> <p>☆自分や友達の保育園・幼稚園の頃の様子が分かったか。 （取材カード・発表）</p> <p>☆保育園・幼稚園の頃のことについて，進んで発表したり友達の発表を聞いたりできたか。 （発表・行動観察）</p>
12 (本時)	<p>○保育園・幼稚園の頃について思い出を振り返る。</p> <p>○保育園の先生の話聞く。</p> <div data-bbox="268 1482 919 1585" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ほいく園・ようち園のころについて，教えてもらおう。</p> </div> <p>・大変だったこと</p> <div data-bbox="395 1653 868 1742" style="border: 2px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>朝，お母さんとはなれるのがいやで，泣く子がありました。</p> </div> <div data-bbox="549 1778 909 1868" style="border: 2px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>なかなかお昼寝をしなかったのよ。</p> </div> <div data-bbox="300 1841 402 1930" style="display: inline-block; vertical-align: middle;">  </div> <div data-bbox="466 1899 852 1989" style="border: 2px solid orange; padding: 5px;"> <p>けがをしないか，いつも心配していましたよ。</p> </div>	<p>・前時で分かったことや感じたことを想起させて本時につなげる。</p> <p>・保育について，良かったことだけでなく，大変だったことも児童に伝えてもらうことで，自分たちが育っていく中で，多くの人にいるお世話になったことに気付かせる。</p> <p>・児童に，園の頃の生活を振り返らせながら話を進めていただく。</p>

・うれしかったこと

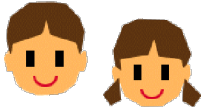
小さかったみなさんが、ぐんぐん大きくなるのが本当に楽しみにでした。



いろんなことを一緒にがんばりましたね。

○保育園の先生に質問をする。

ぼくはどんなことができましたか。



私たちが泣いたときはどうしたんですか。

○保育園・幼稚園の先生からのメッセージを知る。

○保育園・幼稚園の頃のことについて、気付いたことを話し合う。

保育園の先生は、私たちが元気でいられるように見ていてくれたんだな。



たくさん心配することがあったんだな。



ぼくたちががんばっていることを、喜んでくれているんだな。

○保育園・幼稚園の先生に、お手紙を書く意欲をもつ。

○保育園・幼稚園の先生に、手紙を書く。

ほいく園・ようち園の先生に、お手紙を書こう。

○前時のメッセージカードを読み直しながら書く。

○グループで手紙を読み合い、手直しをする。

○これまでの学習を振り返る。

・保育園の先生の話聞いて、もっと知りたくなったことを聞く。

・全ての児童が自分の保育園・幼稚園からのメッセージを受け取れるようにする。

・グループで話し合う場を設定し、全ての児童が発表したり友達の考えを参考にしたりできるようにする。

・気付いたことをメモカードに書かせる。

☆保育園・幼稚園の頃の様子について、理解することができたか。
(発表・メモカード)

☆自分が大きくなるまでに、たくさんの人にお世話になったことに気付くことができたか。
(発表・メモカード)

・生活科の学習をして分かったことや、気付いたことを伝えさせる。

・グループで読み合い、字の間違いを教え合ったり参考にしたりさせる。

☆周囲の人のいろいろな支えがあったことに気づき、感謝の気持ちを表すことができたか。
(発表・手紙)